

災害時医療情報共有システムへの統合による火山ハザードマップのウェブ化の試み The Development of a Web-based Volcano Hazard Map by Integrating into the Disaster Medicine Information-Sharing System

石峯 康浩^{1*}
Yasuhiro Ishimine^{1*}

¹ 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部
¹National Institute of Public Health

2011年3月に発生した東日本大震災の教訓に基づき、国立保健医療科学院では現在、大規模災害が発生した際に限りある医療資源を効率的・効果的に配分するために不可欠な情報共有化のシステムをクラウドベースで構築中である。支援者がなじみのない被災地を訪問して迅速に活動を開始するためには、地理情報を迅速に把握することが重要であることから、本情報共有システムには災害拠点病院や避難所の情報をウェブベースの地図上にマッピングする機能が組み込まれている。この地図には、津波による浸水地域や道路の通行止めを発生させている地滑りの分布等、災害要因の分布を表示することも想定しているため、これまで紙ベースで作られてきた火山のハザードマップの想定被災区域を表示させることも可能である。そこで、2002年に作成された富士山のハザードマップを本情報共有システムに組み込むことを試みたので紹介する(図1参照)。

キーワード: ハザードマップ, GIS, 火山噴火, 富士山, 災害医療, 公衆衛生
Keywords: Hazard Map, GIS, Volcanic Eruption, Mt. Fuji, Disaster Medicine, Public Health

